

人為的な災害、自然災害、SFの災害 絶対に生き延びるために今、できることは何か？

人類滅亡の科学

著者：マーシャル・ブレイン 訳者：竹花秀春 発行：日経ナショナル ジオグラフィック

日経ナショナル ジオグラフィック（代表：滝山晋、所在地：東京都港区虎ノ門）は、『人類滅亡の科学』を2月20日（月）に発行します。

人類滅亡まで残り90秒！ 世界終末時計が時を刻み、その針が過去最短となる時刻を示すなか、人類はぎりぎりの選択を迫られています。本書は、私たち人類が今後直面するかもしれない、あるいは今まさに直面しつつある「滅びのシナリオ」を25篇取り上げ、それぞれの「科学的根拠」と「回避する方法」を考察する、ビジュアル読本です。

「ドローン襲来」「パンデミックと生物兵器」などの人為的な災害、「小惑星の衝突」「酸性化する海洋」などの自然災害、「ロボットの反乱」「宇宙人の侵略」などのSFの世界が現実化した災害の3章に分け、それぞれのシナリオごとに、何が原因で、何が起こり得るのかを見ていきます。

「弾道ミサイルが落ちる危険性あり。ただちに避難を。これは訓練ではありません」携帯電話に届いたメッセージを見た同僚たちがドアへと殺到した――。破滅的なシナリオの中に自分がいることを想像し、そのメカニズムを科学的に解明。それらのシナリオが決して起こらないようにするための方策を検討します。

単に恐怖を煽るのではなく、危機を冷静に分析し、しっかりと対処する姿勢で作られた重厚な内容は全人類必読です。



人類滅亡の科学

マーシャル・ブレイン 著／竹花秀春 訳／2023年2月20日発行／定価 3,960円（10%税込）／288ページ／ソフトカバー／234mm×187mm／日経ナショナル ジオグラフィック 発行／ISBN：978-4-86313-547-5

【目次】

■滅びのシナリオ全25篇

- <1章> 人為的な災害：ダムが決壊／ドローン襲来／核爆弾／南極大陸の崩壊／電磁パルス攻撃／地球温暖化の暴走／パンデミックと生物兵器／化学攻撃と化学事故／電力網攻撃／自動化経済／オピオイド中毒
- <2章> 自然災害：小惑星の衝突／超巨大火山の噴火／大地震／巨大津波／コロナ質量放出／生物大量絶滅／熱帯雨林の崩壊／ハリケーンと台風／酸性化する海洋／メキシコ湾流の崩壊
- <3章> SFの災害：ロボットの反乱／宇宙人の侵略／相対論的破壊飛翔体／ナノロボット

商品のご案内 <https://nationalgeographic.jp/atcl/product/23/012500010/>
Amazon <https://www.amazon.co.jp/dp/4863135475>
楽天ブックス <https://books.rakuten.co.jp/rb/17411442/>

- 人類が直面するかもしれない25篇の災害を「滅びのシナリオ」と「回避する方法」で紹介。
- 9.11同時多発テロ、東日本大震災、コロナによるパンデミック…。想像を絶する前代未聞の災害は起こり得る！ これから生き抜く全人類必読の書。
- 実際に災害に巻き込まれていることを想像できるドラマ仕立てでリアル感満載！

人類滅亡の科学

著者：マーシャル・ブレイン 訳者：竹花秀春 発行：日経ナショナル ジオグラフィック

2月20日発行/日経ナショナル ジオグラフィック

はじめに

タイムマシンに乗って、2001年にタイムトラベルで来たように、あなたはニューヨークに住んでいて、11月14日9月11日、この日は想像を絶するほどのショックで始まる。一日も、そして、朝の8時で、あなたはこれから何が起こるか知らない。

2001年9月11日は平日の火曜日の、たぶん、あなたは職場で既に仕事を始めていて、朝のラッシュアワーに巻き込まれる。職場に向かっているところ。この11月9日の夜、突然、突如と降ってくる。紅葉はまだ始まっていないものの、面白い秋の気配を感じる。

今までのこのことをはっと覚えて、私は「アースロケイション」にあるHowStuffWorks.com(著者が創設したウェブサイトの)のウェブページ、午前9時、ラジオを聴いている社員が声をあげた。ニューヨークが何かに起きている。

今、世界のどこかで何かが起こっている。数秒もしないで、インターネットを使って、起きたこと知ることができた。だがこれは2001年の話だ。Facebookが登場するのは2004年、YouTubeが登場するのは2005年、Twitterが誕生するのは2006年だ。前に伝えたメタを踏襲して現代iPhoneが登場するのは2007年のことだ。ニュースは即時に伝わった。2009年当時でも、ニュースは即時に伝わった。それもはず。事件は世界のメディアの中心であるニューヨークで起きているのだ。

その日、私たちは一日中テレビを見ていた。その火

曜日、米国だけでなく世界中の多くの人々がテレビにはぼんやりとした顔で、私たちは、言葉にできないほどの衝動に打ちのめされて、同時に多量の中絶薬を飲むように思える現実を共有して見ている。

9.11の出来事を待たずに、火曜日の朝9時(東部時間)頃から全米の目がニューヨークに向き始めた理由が分かる。午前8時46分、政府のハッチャック機が104階建ての世界貿易センター北棟に衝突し、北棟から足場崩壊のような巨大な落下物として爆が爆発の雲に昇り始める。

この点に関してはテロリストの計画の巧妙さを認めないといけない。彼らは世界でも有数の巨大ビルが破壊されることをテレビで生中継するに基盤を据えた。攻撃を始める時間も完璧だった。そして攻撃対象として、世界で一番メディアの注目が集まる都市を選んだ。最初の飛行機が北棟に衝突し、標的が上がり始める。ニューヨークに拠点を置くすべての国際的な報道機関のカメラが一致して現場を向いた。それから数分たかないうちに指印と証拠が開始され、コメントの熱狂が始まった。

1機目の飛行機はとてつもないスピードで、北棟に衝突すると目を凝らしたメタは地上に1台しかなかった。しかし2機目のインフラ機が9時3分には世界貿易センター北棟に衝突して、2機目のビルは、多くのビルが倒壊するのと同じように、この2機目のビルは、この2機目のビルを倒壊させた。この2機目のビルを倒壊させた。この2機目のビルを倒壊させた。

この2機目のビルは、この2機目のビルを倒壊させた。この2機目のビルを倒壊させた。この2機目のビルを倒壊させた。

大々ジェット燃料爆弾に突かれたのだ。この2機目の飛行機が直撃に突かされた。後方のタンクには恐らく約22.6トンのジェット燃料が入っていたと考えられる。この衝突の後、世界貿易センターから炎の雲へ爆発と炎が噴き出し北棟に2階になった。そして爆発は続いた。数分前には北棟に2階になったことが、はっともなかったのだ。午前9時3分までは世界貿易センターで起きていることが世界の多くで知られていた。正確なところは分からなかった。だが今はこの日の目撃者だ。米国が攻撃を受けている。

午前9時42分、連邦航空局が国内を飛び交うすべての飛行機を着陸を命じた。離陸はすべて中止された。これを繰り返すようにと金機はだたに着陸しなればならない。これは世界大規模の危機に似ていない。実際、こんなことが命に代わらなければならぬこの時だけだ。

そして、思いも寄らぬことが起こる。午前9時59分、西海岸の多くの人が目を覚まして出陣の支度を始めた。天候がよくなる前に直撃を待たないで逃げた。往復でショックで驚きを見せた。

午前10時2分、ユナイテッド航空93機がペンシルベニア州に墜落する。この機が向かっていたのは連邦議会議事堂だった。10時28分、世界貿易センターの北棟も崩壊する。10時50分には国際航空(ペンシルベニア)に飛行機が墜落する。この墜落を告げるというメタがなかった。一日かけて徐々に事態が明らかになっていく。午前11時、ニューヨークはワシントン・ペンシルベニア(ペンシルベニア島の島)から100万人以上の避難を始める。これはやりきれないほどの、次に何が起きるか分からない状況なのだ。

この日、怒りの火が燃え上がった。田舎の若者を心の中で警鐘を鳴らすのは不思議だ。一般人には、何が起きているのかよく分からない。金も無い。想像するしかない。事業の範囲があまりにも狭く、気がついていない。そして、これはスーパーヒーロー映画の普通の



正 2001年9月11日の朝、世界貿易センターの北棟と南棟に煙が充ちた。南東部のビルはとてつもない煙が広がっている。

ことではない。現実が起こっていることなのだ。まだ門は閉り、どのビルにも煙がまだ見えない。閉まった午後5時20分、世界貿易センターにあった47階建てのビルが完全に崩壊する。これがこの日最後のビルが倒壊した。このビルは、この日最後のビルが倒壊した。このビルは、この日最後のビルが倒壊した。

このビルは、この日最後のビルが倒壊した。このビルは、この日最後のビルが倒壊した。このビルは、この日最後のビルが倒壊した。

9.11同時多発テロは、11階建てのビルを倒壊させ、間違いない世界史上最大規模の惨劇と破壊をもたらした。

vi はじめに

はじめに vii

国土が真二つになる

東部と西部

この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。



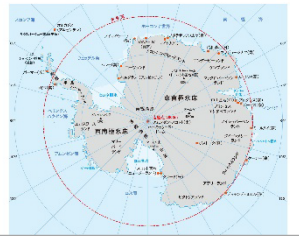
この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。



この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。

滅びのシナリオ

この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。



この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。

地震に強いインフラを造る

この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。この日、世界の多くの人々が、家の中のテレビを見て、感動した。アメリカの国土が真二つになる。



【報道関係からの問合せ先】 日経ナショナル ジオグラフィック 広報事務局 株式会社リリオ 担当：仁地（にんち） TEL：03-6438-9195 090-2226-6459 ninchi.mikito@lirio.biz

株式会社日経ナショナル ジオグラフィック 〒105-8308 東京都港区虎ノ門4-3-12